

松崎町から児童来帯

あすまで 幸福駅やばんえい見学



初めて見るばん馬の大きさに驚く団員ら

帯広市の開拓姉妹都市・
静岡県松崎町の青少年派遣

研修団（団長・中西洋一松崎小学校校長）が7月31日、来帯した。団員10人が2日までの2泊3日の日程で、帯広の歴史や文化を学んでいる。

松崎町は十勝開拓の祖依田勉三の出身地。1978年に帯広と姉妹都市提携を結び、交流を深めるため小学生の相互派遣を毎年行っている。

初日は幸福駅や依田勉三翁の銅像を見学後、帯広競馬場を訪問。見学ツアーに参加し、団員はばん馬の迫力あるレースに目を見張っていた。同競馬場内の「ふれあい動物園」では間近でばん馬に触れ、松崎小6年の山本奈央さん（11）は「ばん馬の大きさにびっくりしたけど触ってみるとかわかった」と笑顔だった

2日目は食品加工や農作業とスケートで交流を深める予定。7～9日には、帯広から松崎町へ子ども親善訪問団が派遣される。

（長谷川正人）